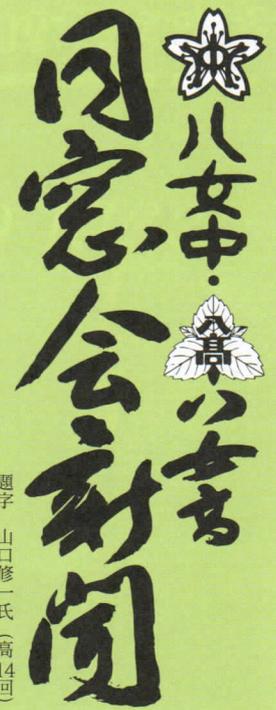


# 送 免 限

名 冊

思い返せば、私は一筋の道を歩いてきた。六十年も昔、羽犬塚の駅で一枚のキップを買って家を出た時から、一筋の道をただひたすら歩いてきた。お前たちも一筋の道を迷わずに歩いてくれればよい、あとはお前たちの努力次第である。



題字 山口修一氏(高14回)

## 第 14 号

発行日/平成28年5月27日  
 発行/八女中・八女高同窓会  
 TEL(0942)53-4184 FAX 52-0341  
 編集/八女中・八女高同窓会事務局  
 〒833-0041  
 福岡県筑後市大字和泉 251  
 福岡県立八女高等学校内



「阿蘇根子岳」(1945年作 同窓会所蔵)



「長崎風景」(1940年作 同窓会所蔵)

泉が丘会館の美術展示室には八女中・八女高同窓会が所蔵する田崎廣助画伯の三作品「阿蘇根子岳」(二九五五)・「夜明けの阿蘇」(二九五六)・「長崎風景」(二九四〇)が展示されている。本同窓会ではすでに周知の巨匠であるが、展示室の奥に鎮まる画伯の絵画は、在校生や昨今の同窓生には残念ながらもあまり触れる機会がない。二〇一四年、九州芸文館において田崎画伯没後三十年を記念し特別展が開催されたが、今年二月十九日、故郷八女市立花町(八女市役所立花庁舎に隣接)に、待望の「八女市田崎廣助美術館」が開設された。

八女中学四回生で、大正五(一九一六)年卒業の田崎廣助画伯の生きた証である絵の前に立ち、絵を描くことに一生を捧げた一途な人生に思いを馳せれば、画伯の絵にわが心を映した試みからは「自分とは何か」を考えずにはいられない。「山岳画家」として大成した画伯が阿蘇の山と初めて出会ったのは、この八女中学在学中(四年次・十六歳)である。友人たちとの無銭徒歩旅行で出かけた際、目の前に広がる雄大な阿蘇の山は、当時少年だった画伯を「覆い被さってくるほど」に圧倒した。生涯のテーマとして阿蘇の山を描き始めたのは、それから三十年後、戦後、画伯が五十の齡(よわい)を数える頃であった。

### 1 芽生え

本名、田崎廣次(ひろじ)。父・田崎作太郎と母・モトの長男として明治三十一年九月一日、八女郡北山町(現立花町)に生まれる。三歳の頃、母親の高価な筆筒(たんす)に金火箸で模様を刻み込んだのが「処女作」となった。豊かな筑後平野にあり、矢部川の清流が蛇行し水田の彼方に飛形山が稜線美しく聳える。なお、当時の地形図には「鳶形山」と表記されている。幼少期、立花の自然をこよなく愛する母親と並んで眺めた飛形山の風景は、色彩豊かに記憶の中で生き続け、絵心を動かすことになる。

### 2 画家になる

#### 決意

北山尋常小学校から八女中学校(現在の八女高校へ進学し、往復四里(十六km)の

道のりを徒歩で通う。八女中学時代、美術教師の安藤先生に画才を認められ大きく影響を受ける。美術学校進学を強く希望するも父親の猛反対に遭い、福岡師範学校(現在の福岡教育大学)に進み、八女郡(現八女市)上妻小学校に赴任し教鞭をとる。その間、地元において東京の美術学生で八女中学の同窓生が結成した紅檀社(こうろうしゃ)の八女福島での展示会に出品する機会を得た。その折、唯一作品に買い手がつき、自分の絵が認められた自信と友人からの強い推薦が、諦めきれずにいた画家への道を強く押すこととなった。

三年間の小学校勤務後、福岡師範学校の恩師、東本先生の紹介で行橋市の京都(みやこ)高等女学校(現京都高等学校)の美術教官採用の話があり、弟が見送る中、羽犬塚駅から列車に乗ったが、買ったのは実は行橋市行きではなく東京行きの切符であった。廣助二十二歳、息子に期待する父親や恩師とも縁を切り、絵に人生を賭ける一大決心を下した、まさに転機の節目であった。



田崎廣助画伯の生家



田崎廣助画伯

【田崎芸術】

3 東洋の心で、東洋の絵を描く

上京した後、坂本繁二郎氏の自宅を訪れるようになり、郷里の矢部川での鮎釣り（投網）の話や美術論に花を咲かせた。二人の間には、東洋文明の持つ精神的な次元の高さ、芸術的な深みを日本人自らの中に見出し、西洋文明の単なる模倣でない日本の文化を打ち立てるべきだという共通の信念があった。

東京に上京し三年後の一九二三年、関東大震災に遭い、美術の古都へ居を移す。就職した京都市立錦林小学校で生涯の伴侶敏子夫人と出会う。結婚と同時に田崎氏は画業に専念、妻の敏子氏が教職を続けて夫を支えた。この時期、田崎氏が日本の伝統文化や古美術の勉強に励み、「東洋の心」を追い求めながら独自の美術論を確立した背景には、敏子夫人の深い理解と経済的内助の功に負うところが大きかった。

結婚二年後の二十八歳で、二科展に異例の三点入選を果たし、一躍、画家として名を知られるようになり、北九州の藏内氏、安川氏の支援のもと福岡での個展を開き洋行の準備を整えた。フランスにてセザンヌの世界最高傑作「ピクトリア山」の実物を目の前にしたときの凡庸な様に驚き、同時に悟った。写真とは自然という形を借りて人の心を映すもの、「つまるところ、芸術というものは、創作する人間その人の人間味だ。」

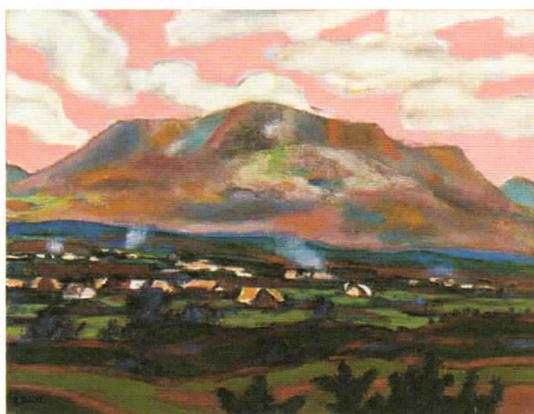
4 故郷への思い

戦時中一九四四年に疎開のため故郷を訪れている。親戚の人には、お礼の野菜や絵の具代だけで絵を描いて配ったという。二年後に再び上京し一九五〇年を過ぎた頃から阿蘇山を主題とした作品に本格的に取り組み始める。後に

文化勲章を受章し、翌年一九七六年（昭和五一年）に郷里を訪れ立花町（八女市）名誉町民第一号として歓待され、八女市および八女高校において記念講演を行う。田崎氏は時代ごとの主要作品は郷土に残し、良い絵を郷土の人々の前でまとめて見てもらう義務がある、という信念を持ち、福岡市美術館の開館にあたって三十点余りの絵画を寄贈した。数多くの作品を描き続け、周囲の人に惜しみなく寄贈する心は、芸術家として、己の生きている証、哲学を広く知らしめる行為でもあったのだろうか。

5 「阿蘇」に向かう姿勢

八女中学四年の時に阿蘇山と出会い魅せられた。しかし田崎氏にとって画家としての技術の準備がなければ、描ける山ではなかったという。「阿蘇山」を一水会に出品したのは、ほぼ三十年後の四十四歳の時である。三十年来の構想であり、彼にとつて阿蘇というモ



「阿蘇山」(1955年作 田崎美術館所蔵) 奥様の誕生日に

チーフは「欲得抜きで、描きたくて、描かずにはおられなくて、描いた山」であった。独特の色合いがどこから生まれるのかという問いに対し、「山を描く場合、三日間朝から夕方まで山の周りを歩きまわる。あらゆる方角からしっかりと山を見る。骨ぐみ、形、気品、力、重さ、変化の妙、絵画的、あらゆる条件の備わった場所をみつめる。高く、清く、美しい、神の如く尊い名山を、しっかりと描きたいものである。人間のすべてのエネルギーを集めなくては山は描けないと思う。」と答えている。

6 道

「阿蘇の田崎」として世界的にも名高い田崎画伯であるが、その生涯にはいくつもの分岐点があったと推察できる。ひとつは二十二歳の時である。息子に社会的地位と経済的安定を求めて反対する父の意を酌むも、「絵を描きたい」という自らの夢を捨てきれず東京行きの列車に乗った。その時、田崎氏には経済的基盤も成功する保証も何もなかったであろう。自分は何がしたいかというその志のみがそうさせたのではなからうか。またある時、五十歳目前の田崎氏が、「俺は何故、画家になったのだらうか。」と堪えきれずに息子に一言漏らした。その後から猛烈な勢いで絵筆を握ったという。朝アトリエに入ると、昼食も忘れ暗くなるまで絵筆を握った。次々と作品を生み出す中で、画家としての迷いを払拭し、田崎氏独自の芸術の道、東洋の心を表現する油絵を究めていったのであろう。七十歳、八十歳を過ぎたころから、思うままの表現ができるようになったが、完成したわけではなく、なお自身の道には先

がある、生涯絵筆を握った。ご長男陽之介氏は、父親のことを自己の全生涯を画業に賭けて、「絵にしがみついて生きてきた人」だと語る。最後に、田崎画伯の言葉を引用して結びたい。「私の美術論は、ある時は時代と逆行して孤立し、ある時は無視され、ある時は誤解され、批判され、さらに攻撃さえ受けた。けれども、私は初心を貫き通した。東洋の心で東洋の絵を描く、あるいは日本人の絵を描く、ということが洋画の世界では理解されがたいことであつただろうし、近代絵画の歴史が浅い我が国の洋画壇では無理からぬことだったかもしれない。けれども、力のある者は、かならず世界に認められてゆく。これは、どの世界でも同じことだ。自分の道を見つけて、ずーっと一直線に励んで行かれるがよい。世の中には、目の見える人がどこにでもかならずいて、ちゃんとみてくれているものだ。」

参考資料

- ① 田崎廣助『東洋の心―絵筆とともに 八十年―』西日本新聞社、一九七九年
  - ② 『特別展：没後30年 田崎廣助 巨匠八女よりいづる』九州芸文館美術展発行委員会、二〇一四年
  - 田崎美術館館長 坂本佳久様
  - 九州芸文館館長 津留誠一様
  - 柳病院副院長 高橋宏様(高27回)
  - 八女市 新社会推進部文化振興課 文化振興係 大島真一郎様(高37回)
- よりご指導およびご協力頂きました。深く感謝の意を申し上げます。

# 我が母校

同窓会会長

下川 泰(高2回)



うか。

残念ながら、只今四月十四日、十六日からの熊本地震で被災された方、亡くなられた方々など大変な事態の発生で、その対応など多大なご苦労をされておられることと思ひます。

去る三月一日に、六十八回生の卒業式が行われ、同窓会は二百四十名の新同窓生を迎え、同窓生二万八千二百三十九名を数える規模となりました。これも、創立明治四十一年以来、百八年に亘る歴史と伝統の賜物と思ひます。

四月七日には、第七十一回生二百四十名が入学式を迎えられました。ただ通学区域内の過疎化・少子化の影響もあり、本校も六クラスと減っています。すでに五クラスを堅持できるか危ぶんでいます。また、近年、公立高校の中高一貫校への動きが活発化していますが、我が母校の将来を思えば、この問題も一考に値するのではないかと思っています。

## 感謝

八女高校校長

内田 武文



先ずもつて、この度の熊本地震により、多くの尊い命と財産が奪われました。亡くなられた皆様のご冥福をお祈りし、被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

さて、私は本年も八女高校校長を拝命し、三年目を迎えました。この間、同窓会員の皆様には、本校教育活動に対し格別の御理解と御協力を賜っており、心から感謝申し上げます。

最近、国においても大学等奨学金事業関係の議論がなされ、子供の貧困率が大きな問題としてマスコミ等で取り扱われております。そのような中、本校も決して例外ではなく、経済的に大変厳しい状況を抱える生徒は少なくありません。勉学に対する意欲は十分あるが、進学をあきらめざるを得ないと心配している生徒もおります。そのような中、同窓会におかれましては、毎年九名の生徒を対象とした奨学金給付事業を継続実施していただき、これまで多くの生徒が御支援いただきました。このような事業を行っていただける学校は県下でも少なく、校長として、ただただ感謝するばかりであります。

学校の近況につきましては、生徒達は、校訓「質実剛健」のもと、文武両道の精神をしっかりと引き継ぎ、日々、充実した学校生活を送っています。去る三月一日には、下川泰同窓会会長、副会長であられます蔵内勇夫県議会議員、中村征一現市長をはじめ、多くの同窓会役員の方々の御臨席を賜り、厳粛な中にも心温まる第六十八回卒業証書授与式を挙げて、七クラス二百七十三名の卒業生が母

同窓会本部では、まず、学校との緊密な連携を図るべく、各種学校行事に参加し、また、先生方、保護者会、その他教育行政の人とも話し合う場を持つたりして情報の共有等に努めています。支部については、同窓会前々日に全国支部長会議を開き、各支部との情報交換等を行い、更なる各支部の発展を期している次第です。最近では久留米支部が再開され、ほとんどの支部が立ち上がりました。そして、各支部総会の参加者も年々増加し、盛況をおさめています。特に、関東支部では生徒有志の東京研修に多大の支援を頂き、感謝に堪えません。

さて、本年度大同窓会総会は、五月二十九日(日)に挙行されます。担当はご承知の通り三十九回生で、野田雄一郎氏を中心に大いに頑張っておられます。皆さん方の期待に十分応えていただくと思ひます。奮ってご参加ください。同窓会チケット売上金の中の二部(百万円)を同窓会からの生徒奨学金に充てて頂くことになっています。この事業は、もう十二回も続いて頂いています。誠に有り難いことです。最後になりましたが、二年後に百周年を迎えます。学校と話し合い、記念事業の企画立案中であり、各員の各位のご健康と、今後ますますのご活躍をお祈りします。

校を巣立っていきました。

その数日後、地域の方から学校に次のような電話をいただきました。卒業証書授与式の翌日九時三十分頃、筑後市野町の踏切で、本校の男子生徒が自転車を押しながら、一時折返してはゴミを拾い袋に入れていたそうです。御本人はバイクに乗られていて、「ゴミを拾った」と生徒に声をかけられたら、その生徒は「はい。そうです」と答えたそうです。とても気持ちよく、本当に感動しました。このことでした。昨年も卒業証書授与式が終わって、それまでお世話になった学校への感謝から校門に一礼して、学校を去っていき生徒たちがいたことを報告いたしました。きっとその生徒も、感謝の気持ちをくれて、自分が通ったお世話になった通学路のゴミを拾って、自分でたろうと思ひます。何と素晴らしい行いでしょうか。八女高校では、まさに我々大人が生徒に教えられることが数多くあります。

そして、この度の人事異動により、教頭、事務長を新たに迎え、四月七日に第七十一回入学式を行い、六クラス二百四十名の新入生が入学して、新年度をスタートしました。校舎では、日々、生徒達の心にもっと明るい挨拶が飛び交っております。是非とも、皆様にも母校へ御来校いただき、そのような生徒達の姿を御覧いただければ幸いです。私たち職員一同、これからも、目の前の生徒一人一人を大切に、生徒達が充実した高校生活を送ることができるよう、一丸となって教育活動に邁進して参る所存であります。結びに、八女中・八女高同窓会の更なる御発展と、会員の皆様の、今後の御活躍・御健勝を祈念しますとともに、引き続き母校、後輩への温かい御支援、御指導を心からお願ひ申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

# 支部だより

## 関東支部

今年も盛り上がりつつあるよ

関東支部は!

関東支部長

福本 博(高12回)

\*平成二十七年総会・懇親会開催

平成二十七年六月十三日(土)、昨年好評であった東京プリンスホテルにて総会・懇親会を開催、本部から下川会長(高2回)、母校から内田校長等四名の来賓をお迎えし、過去最大規模、中三十六回生の大先輩から現役大学生まで四十二年・総勢二九〇名の同窓生が集まりました。

下川会長からは、活気づいている関東支部へのお褒めの言葉や、財政的に厳しくなっている同窓会の現状とその打開策の為の終身会費納入のお願い等のご挨拶、内田校長からは、毎年八月実施の「在校生東京研修」における支部の支援に対しての御礼や母校の現状説明等のお話を頂きました。

イベントでは、近藤研二さん(高37回)のミニコンサート・Y.A.M.E.48が盛り上げてくれた福引抽選会、お茶娘による八女茶のサービスなど、当番幹事38回生「おもてなし」が伝わり沢山の笑顔が見られた懇親会でした。最後に全員で校歌合唱し来年の再会を約束し散会致しました。

\*その他行事・お知らせ\*

行事開催の度に

『関東支部便り』を発刊しています。詳細は本部HPの支部情報から入って閲覧下さい。

●在校生東京研修(第五回)

●年三回の運営会議開催(役員・学年幹事会)

●年二回の東ゆう



第86回 八女中・八女高同窓会 関東支部総会

かり会(親睦ゴルフコンペ)  
●支部運営体制の整備・強化、資金管理の為に「関東支部会則」を制定し運用開始。  
尚、平成二十八年度支部総会・懇親会は六月十一日(土)です。

## 大牟田支部

世界遺産で会員が増えるかな?

大牟田支部長

下川 斌弘(高11回)

小生が大牟田支部長をさせて頂くようになり五年になりますが、支部の活動と言っても、総会の当日に、同窓会会長や校長先生などのご来賓の方々、総会実行委員長や他支部から大牟田に就職されている方々の出席のもと、家庭的で和やかな雰囲気での支部総会を開くだけです。

この五年間に当支部を去られた方(死亡された方、転勤・転宅などで引越された方)は十名を超えますが、新しく入会された方は、一名にすぎません。大牟田市の人口は最盛期には二十二人を超えていましたが、現在は十二万人代になっております。このままだと西暦二〇六〇年には六万五千人になると試算も発表されています。



三池炭鉱宮原坑

この人口減少の歯止めになると思われるのが、明治日本の産業革命遺産の一部であります。三池炭鉱関連遺産が世界文化遺産として登録されました。しかし、街全体に盛り上がり欠けてきているようです。大牟田地区の生みの親!と言っても過言ではない團琢磨氏も草葉の陰で嘆いて居られるかも知れませぬ。

## 立花支部

### 八女市立花支部の活動報告

立花支部長 朽網 英文(高21回)

毎年二・三回ほどの理事会を開き、例年通り三月の第一日曜日(三月六日)に立花支部総会を開催いたしました。

今年の講演は「ふるさと愛」という題目で、本校の同窓会副会長であります大塚高典氏に講演をしていただきました。改めて、先代たちの努力と自らの才能の発掘には、頭の下がる思いで拝聴したところです。

過去の学校区域制度の影響で昭和三十五年ぐらいいから四十九年ぐらいいの間、旧八女市は南中と西中、八女郡では広川町、立花町においては筑南中のみと進学できる範囲が限られていました。その間の役員構成も偏ったものとなり、なかなか立花町全体の盛り上がりにかけていたのが現実の問題でした。現在はこうした問題も無くなりつつあります。

## ふるさと愛



立花支部の全員の皆様に、少しでも先輩たちからの情報を発しながら、我々役員もまた活動の励みとして運営していきたいと思っております。

## 第五十五回広陽会(八女中・八女高 広川支部同窓会)総会開催

広川支部長 井上 利明(高17回)

今年も恒例の広陽会総会を二月十一日(建国記念の日)に広川町の料亭扇屋で開催致しました。発足以来五十五年間という長い歴史を持ってきたのは会員の皆様と歴代役員諸氏のご努力の賜物です。先輩方に謹んで敬意を表する次第です。今年も例年同様に広川町内各行政区から選出された役員による役員会を開いて総会の段取りを話し合い、その後、役員が会員宅を訪問して出欠を確

認して参加費および年会費を集めました。比較的小規模な組織と地域を活かした取り組みと役員諸氏の纏まった積極的な協力体制が会員相合の絆を深めていることと思います。

総会では下川泰同窓会長、大塚泰三八女支部長および久保大筑後支部長にご臨席・ご挨拶をいただきました。なお内田武文校長先生からは急用のためにも欠席の連絡を受けました。先ず物故会員の弔い・黙とうを行い、「あかつき」と「こきわの森」を高らかに斉唱、行事および会計報告が事務局より行われた後、恒例の講演会を行いました。八女高四十九回卒業の氷室健太郎氏に講演をお願いしました。氷室氏は広川町役場の政策調整課の主査として近年は地方創世の業務に携わられ、広川町の発展に寄与されています。広川町の地方創生の取り組みについて講演いただき、広川町の特色を生かした取り組みと実態を緻密なデータとともに紹介いただき、町民として興味深い講演でした。懇親会では恒例の同窓会総会の当番役員(高39回)さんによるチケツト頒布があり、来賓の方、支部会員および同窓会の当番役員さんを囲んで世代を超えた交流が行われました。宴会たけなわでは広陽会副会長、広川町文化連盟会長の大隈康子(高15回)先輩率いる八女高音頭の総踊りで盛り上がり、なお、総会チケツトは予定枚数ほぼ完売だったそうです。さらに今年も昨年並みの出席者数五十四名を維持できました。これらの結果が老若男女広陽会会員相合の絆の深まりを示していることを実感しました。



## 大木支部

### 設立五周年を迎えて

大木支部長 眞邊 泰則(高16回)

大木支部では、恒例になっております十一月第二土曜日(平成二十七年十一月七日)に、渡辺セツ子、相良いく子御両名の同窓会副会

長、内田武文校長のご臨席を賜り、大木の湯「アクアス」にて、支部総会を開催しました。

総会には、三十余名の参加があり、現在の八女高校及び同窓会の現状報告等があり、二十六年度の事業報告(支部名簿の発刊)、決算報告及び二十七年年度の事業計画、予算案の承認などの後、初の講演会へと進みました。今回は高校十八回卒業の水田天満宮宮原恭盛宮司を講師にお迎えして、「眞木和泉守と水田天満宮」と題して講演いただきました。激動の幕末期に理論的指導者として波乱の生涯を送った眞木和泉守保臣が、筑後市水田への蟄居を命じられ、日本の将来を見据え、門下生とともに世界に耳を傾けながら山柵窩で約十年間の謫居生活や討幕のための脱出に至るまでの経緯など限られた時間ではありましたが、時間が経つのも忘れ、久しぶりに歴史の学習をしました。

二十七年年度の事業として、ゴルフコンペを春季(五月に予定)に実施することを確認し、総会は滞りなく終了しました。引き続き懇親会では、当番役員によるチケツト販売があり、来賓・会員の皆様と世代を超え賑やかな雰囲気の中で進められました。



## みやま支部

### 第二十八回八女中・八女高同窓会

みやま支部総会 開催

みやま支部長 大田黒 誠之(高25回)

みやま支部では、三月六日「茶寮はなぞの」において、みやま支部総会を開催いたしました。下川同窓会長と学校より渡辺事務長をお迎えして、同窓会の現状及び学校の進路等につき、報告を兼ねてご挨拶をいただきました。その後、物故会員に対して黙とうを行いました。

決算報告及び事業報告の議事出席者の皆様に御承認いただき、無事総会を終えることができました。

その後の親睦会では、本年度・次年度の同窓会総会の役員の皆様は勿論のこと、前年度役員の方を代表者を務められた吉田世津子様にも無理を言ってお席していただき、互いが青春時代に帰って会員相互の親睦を深めることができました。今年の参加者は、八女中卒業の先輩方より、御高齢という理由での欠席の通知が多く、役員一同とても残念に思っております。しかし、唯一、八女中三十六回生の秋原孝先生にご出席いただいたのが何よりの幸せでした。

当支部の総会参加者は残念ながら、年々減少傾向にあります。これに対して、会員の皆様からも何とかしなければ、という声が上がりました。今後、出席増加の取り組みを検討しながら、みやま支部の充実を図ってまいりますので、会員の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

## 八女支部

### 八女支部総会・懇親会

八女支部長 大塚 泰三(高16回)

支部総会は、恒例により十一月第二日曜日(二十七年度は八日)に、メモリアルホール「いわ井」において開催いたしました。近年参加者が少しずつ増え、今回も丸テーブルが一つ増え、百名程度のご参加をいただきました。

今回は講師に高校三十七回卒の太刀山美樹氏(株式会社MIKI・フアンニット代表取締役)をお願いいたしました。演題は「人生は前傾姿勢!八女高から学んだもの」でした。大変迫力のある話で、「人生をいかに前向きに歩くか!」と、人生をかなり学んだ者にとって、今一度考えさせられました。

講演の余韻の中、総会・懇親会と流れ、懇親会は大変に盛り上がり大賑わいとなりました。さらに二次会と流れ、高校三十九回生が大変盛り上げ、チケツトを完売され、同窓生はひと時、青春時代に戻ったような気分です。楽しく過ごすことができました。

八女支部総会は、毎年、十一月の第二日、曜日十五時よりメモリアルホール「いわ井」にて開催いたしました。同窓生でチケットを買っていただければ、どなたでも参加できます。チケットは前売り・当日とございます。どうぞ気軽にご参加いただければと思います。同じ校庭で過ごした人々の、その青春の帰郷のひと時を過ごそうではありませんか。



### 筑後支部

ときはの森に集う

筑後支部では、平成二十七年年度支部総会を恒例になっています。十月末の土曜日に、十三回生の皆さんのお世話で八女高校泉が丘会館会議室にて開催いたしました。総会は、当番学年の皆さんのご努力で年々参加者が増加し、多くの同窓生の皆様に参加していただきました。来賓として下川泰同窓会長をはじめ、本部同窓会役員や各支部の支部長、そして学校側から内田武文校長をはじめ管理職の方々にご臨席を賜り、盛大に開催することができました。

総会では、平成二十六年年度会務会計報告及び監査報告や役員改選の年で、全員留任等もご承認いただきました。また、前年度当番の三十二回生を代表して野田展宏氏から支部会余剰金を八女高同窓会奨学金として下川会長に、また、八女高校の教育活動資金として内田校長に寄贈されました。引き続き、二十六回生の筑後市役所山口朋秀総務部長から「筑後市まち・ひと・しごと創世（地方創世）」と題し、講演をいただきました。その後、会場を一階の食堂に移し、八女中・八女高の校歌を斉唱し、懇親会が始まりました。



ました。久々の再会で話が尽きなく、閉会の機会がなかなか作れないほどの盛況でした。平成二十八年年度の筑後支部総会、懇親会は、三十四回生の皆さんのお世話で十月二十九日土曜日に八女高校泉ヶ丘会館で開催を予定しています。皆さまお誘いの上、一人でも多くの方々にご出席いただきますようお願いいたします。また、他支部にお住いの筑後市出身の方も故郷同窓会に是非ご出席ください。お待ちしております。

### 福岡支部

懐かしい顔に出会える場に

福岡支部部長 加藤 久(高25回)  
平成二十七年年度、八女中学・八女高校同窓会福岡支部総会は、平成二十七年十月九日、博多駅近くの「八仙閣本店」において、下川泰同窓会会長、中村筑後市長、田中教頭をはじめ多くの来賓の方々にご参加いただき、二〇〇名を超える参加者で盛大に開催されました。蔵内先輩には、お忙しい中、学会を抜けだして参加戴きました。

記念講演として、新しい視点で様々な地域おこし活動に取り組んでおられます、八女地域おこし協力隊の七名の方々にお話をいただいたきました。疲弊しがちな八女の故郷が、若い方の視点で活性化することが大いに期待できる内容でした。また、今回の支部同窓会開催に当たりましては、大同窓会の当番幹事であり、三十九回生の方々には絶大なご協力をいただきましたことをこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

同窓会開催が一番苦勞するのが集客であります。全く無関心の人、一度は来たけれどもおもしろくなかったのだから来なくなった人、同窓会の存在すら知らない人様々であります。また、支部の活動費の問題もあります。活動をするには当然のことながら経費がかかります。それを一部の人に負担させるのは合理的ではありません。だからと言って、様々な異なる環境におかれている同窓生から、一律に機械的に徴収するのも味気ない話です。

なかなか難しい問題ではありますが、いずれにいたしましても、支部総会、懇親会を本当に有意義かつ楽しいものにし、誘われたから来るのではなく、支部総会の日が待ち遠しいようにすることが絶対条件にならうかと思っております。

福岡支部同窓会が、八女中学、八女高校をご縁に、日頃会うことのできない新旧様々な方との出会いのチャンスを与える場になればと念願しつつ、今後の支部運営をして参りたいと思っております。

なお、本年度の支部総会は十月上旬、昨年と同じ「八仙閣本店」にて開催予定です。多くの方のご参加をお願い致します。

### 久留米支部

八女中・八女高創立百十周年

同窓会に向けて

久留米支部部長 近藤 信夫(高12回)  
私は八女高校第十二回卒業生ですが、久留米支部長としての役を引き受け、三年目にあります。久留米支部は八女高校に近いせいか、遠方にならば身近に感じられ、支部としての活動はなかなか機能することなく、経過しているのが現状です。

私が支部長就任後、市内ホテルにおいて会合を持ちましたところ、思いのほか参加者があり、母校への想いも皆深く、心強く感じました。昨年の会合では参加者も増え、より旧交を温めることができました。「いざ鎌倉」という言葉があるように、何かありましたら千八百名を超す大所帯です。大変心強い力になるかと思っております。

卒業以来半世紀を過ぎた今、同窓会久留米支部長として創立百十周年記念同窓会の協議会に携わり、記念式典・記念講演・記念誌・記念碑・祝賀会・学校支援事業・名簿の発行・校旗更新等、多岐にわたる審議をもとに準備を進めています。また、同窓会基金として、これまで新聞社まかせの広告から調達していましたが、今回は協議会側が主体となり、企画・印刷・新聞折り込みを遂行することで、広告料を半減することができ、倍以上の収益を上げることができそうです。

久留米支部といたしましては、協力して資金調達を上げるべく、取り組みに向けて話し合いを重ねるところです。

### 関西支部

新会場での総会について！

関西支部部長 大崎 繁満(高17回)

平成二十七年年度関西支部の総会は十一月二十一日(土)に開催され、担当幹事として原田さん(高19回)及び木野さんをはじめとする高二十回卒の皆様方のお世話で盛大に行うことが出来ました。

会場を新大阪ワシントンホテルの二十三階にあるチャイナテールに移して、高一回卒〜高三十九回卒の幅広い年代の参加会員六十一名が集い、総会に続いての吉岡先輩(高8回)の記念講演「私の高校時代に求めた人生」では皆さんが一緒に共感を覚え、笑いを誘う和気藹々とした雰囲気になりました。懇親会では、来賓として下川同窓会長、大塚副会長、内田八女高校校長を迎え、本部や母校の状況を伺い交流を深めると共に、本年当番幹事の高三十九回卒の皆さん等、筑後方面からも参加頂き、ゲームやイベントで盛り上がり、歓談で先輩、同輩、後輩間での絆が強化された状況でした。最後に高橋幹事(高18回)の先導で八女中学校及び八女高等学校の校歌を斉唱し、再会を期して閉会した次第です。

さて、新会場は若干手狭で、移動や料理の取り方にご不便を掛けました。次回にはホテルの宴会場でゆつたりと開催予定です。又、隈本先輩(高8回)撮影の記念写真を添付しておきます。

平成二十八年年度関西支部の総会は十一月五日(土)十一時三十分新大阪ワシントンホテルで開催しますので、お誘い合わせの上、多数の方のご参加をお待ちしています。



# 「出会いに、感謝。」

## 「八女中・八女高の絆」

平成二十八年年度大同窓会実行委員会  
実行委員長 野田 雄一郎(高39回)

二年前、何も分からないまま前世話がスタートしました。約二十年ぶりに開催した学年同窓会は物珍しさもあり思いがけず大盛況。その勢いのまま前世話、そして本世話とみんな力を合わせて今日まで進んでくることが出来ました。私が投げる難しい球も快く受けてくれた同級生は本当に心強く、改めて友情のありがたさと八女高生の素晴らしさを実感しました。

本年の大同窓会のテーマは「出会いに感謝」としました。このテーマを決めた当初頭にあつたのは、母校に縁ある今まで(過去)に出会った人や事柄に対しての感謝の思いでした。ところが、この大同窓会のお世話に携わっていく中で、同級生を始め、先輩や後輩達との数えきれない程の新しい出会いや発見がありました。それはいわば「未来の出会い」でした。「出会い」はこれからもうずっと広がって行くでしょう。卒業三十年にして母校が教えてくれたこの絆こそ、これからの人生の大きな財産となるに違いありません。

皆さま、お忙しい中本年も大同窓会にお越しいただき本当にありがとうございます。同窓生としてこの同じ時を共有出来ることに感謝しながら、皆様の心にくちくちとおもてなしが出来たら幸いです。最後にになりましたが、いつも温かく見守って戴いた下川会長を始め役員や各支部の皆様、何も分らない私たちに一から十一まで教えて戴いた三十八回生の先輩方、そして頼りない先輩でしたが一緒に頑張ってくれた四十回生の皆さんに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

これからもこの八女中・八女高の絆が地域や日本の未来をよりよく照らしていくことを祈念しつつご挨拶とさせていただきます。

## 「出会いに、感謝。」

平成二十八年年度大同窓会実行委員会  
企画委員長 加藤 裕幸(高39回)

平成二十八年年度大同窓会「出会いに感謝。〜かわつてもかわらないもの〜」にご参加いただき誠にありがとうございます。ご参加のこの日の出会いに感謝できる大同窓会になったのでしょうか？企画委員長を任せられた当初の企画委員メンバーはわずか四名でした。不安を抱えたまま企画を進める私たちに諸先輩方をはじめとする様々な出会いがあり、温かいご支援やアドバイスを頂きながら準備を進めることができました。個人的には仕事上のお付き合いのある方が実は先輩であったり、交流のなかった同級生と親しい発見もたくさんありました。同窓生のパワーとネットワークには大変驚かされた事が印象に残っています。思い返せばこうした奇跡的な出会いが「軌跡」(二〇一五大同窓会テーマ)となり未来へ引継がれていく経験になりました。また今回のポスターでは「言葉でストレートに表現する」をデザインに採用しましたが、みなさんお気付きでしょうか？実はたくさん思い出のアイテムがちりばめられています。文字を構成する楽器、ボールなどはすべて母校で実際に使用されているもので、サブタイトルの「そこで培われたものは時間や場所がかわつてもかわらないもの」をイメージしています。こうした大同窓会の集いがこれからもかわることなく、八女高の歴史と伝統を繋ぐ「出会いに、感謝。」する場となるよう祈念して、関係各位の皆様にご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます。そして最後に三十九回生の皆さんに「感謝 Thank you 三十九回卒業生！」

## 「第四十回泉ヶ丘ゴルフコンペ」

平成二十八年年度大同窓会実行委員会  
事業委員長 馬場 賢一郎(高39回)

四月二十九日の泉ヶ丘ゴルフコンペには多数のご参加をいただきありがとうございます。今回は、泉ヶ丘会の新会長、野田直亮先輩(高13)の会長デビュー戦、また四十回の記念大会でもあり、例年にも増して思い出に残る一日を過ごしていただきたいと企画準備してまいりました。たくさんのお申込みをいただき、スタッフの準備もほぼ整った頃に発生したのが熊本地震でした。隣県が被災している時にコンペを開催してよいか悩みましたが、野田会長や諸先輩方に「こんな時だからこそ八女高同窓会ゴルフ会としてできる支援を考えてもいいんじゃないか」と背中を押していただきました。

当日は絶好のゴルフ日和。写真撮影の企画やチャリティホールでの記念ボールプレゼントは好評で、コンペ終了後や表彰式で笑顔の先輩方を送迎できて本当に良かったと思えました。熊本地震災義援金にも多くのご厚志をいただき、この場を借りて御礼申し上げます。

準備や運営に携わって、多くの先輩方が泉ヶ丘ゴルフ会や大同窓会を楽しみにされていること、長い年月を経ても続く八女高の友垣のかたさを感じ、深く感動しました。最後に、早朝から全力で協力してくれた三十九回生の仲間たち、頼りない私を支えてくれた事業委員会メンバー、かけがえのない経験の機会を与えてくれた野田実行委員長に心から感謝します。ありがとうございました。



## 感謝の思い

平成二十七年年度大同窓会実行委員会  
実行委員長 吉田 世津子(高38回)

昨年の大同窓会から、あつという間に一年が過ぎました。改めて、この紙面をお借りして、御指導、御支援を頂きました八女高校、先生方、大先輩方、後輩の皆様から御礼申し上げます。

幹事としての最初の大事な仕事は、昨年の同窓会新聞の企画ものの作成で「時代を超えて心ひとつに...」当時一〇一歳の故西木戸衛大先輩、九十一歳の寺山文融大先輩、お二人との出会いでした。そして一年を通して一番多くお会いした先輩は、現在八十五歳でいらつしやる同窓会会長の下川泰大先輩です。

まだまだお若くてエネルギーで、熱い母校愛、強い志をお持ちです。

御三方の大先輩はもとより、多くの大先輩方が、全国各地、各方面で活躍し、偉大なる功績を築いていらつしやいます。キラキラと輝く先輩方に敬意を表し、今後、五十代、六十代へと歳を重ねることが楽しみになつてきました。

一生に一度の当番幹事としての大役を三十八回生の大好きな仲間たちと務めさせて頂いたことを、心より感謝申し上げます。ここで得たものは、大切な宝物、一生の財産です。

この八女中・八女高校の伝統、軌跡を繋ぎ、素晴らしい大同窓会が未来永劫続いていきますことを、また皆様の御健康、御多幸を心からお祈り申し上げます。

「軌跡〜そして未来へ〜心ひとつに!!」  
八女中・八女高 パンサーイ❤





# 八女高校大運動会

平成28年6月4日(土)

テーマ「飛龍乗雲」



## 平成28年度 入試等合格者

☆**国立大学**.....**3年連続100名突破!!**

九州大学 3名(薬学部含む) 熊本大学 8名 広島大学 4名

☆**私立大学**...

慶應義塾大学 2名 早稲田大学 1名 明治大学 2名 中央大学 2名

関関同立 20名 合格!(関学大、同志社、立命館)

西南学院大 58名 今年の1.7倍 福岡大135名 昨年を上回る

☆**防衛大学校 31名合格!**

## 平成27年度の部活動報告

全国大会出場

- ◎空手道部  
第58回全国空手道選手権大会個人戦 高校男子形の部  
6月27日~28日(於 東京都) 溝上天斗(3年)
- ◎弓道部  
第70回国民体育大会 2015紀の国わかやま国体 少年男子の部  
9月27日~30日 彌吉修明(3年)
- ◎陸上競技部  
全国高等学校陸上競技対抗選手権九州大会  
砲丸投げ 尋木奏百(3年)
- ◎水泳部  
全九州高等学校水泳競技選手権大会  
400m個人メドレー 200m個人メドレー 吉岡莉帆(2年)  
400mメドレーリレー 400mリレー 壇・島崎・吉岡・吉瀬
- 全九州高等学校選手権新人水泳競技大会  
50m背泳ぎ・100m自由形 下川隼一(2年)  
50m平泳ぎ 木下晃志(1年)  
100m自由形・200m自由形 吉岡莉帆(2年)  
50m背泳ぎ 島崎夏海(2年)  
200m背泳ぎ・200m個人メドレー 吉瀬綾乃(2年)
- ◎放送部  
平成27年度高文祭放送コンテスト九州大会  
朗読部門 中村泉美(2年)  
平成27年度高文祭九州高等学校文芸コンクール  
短歌部門 西原陸(1年)  
俳句部門 小嶋紳助(1年)

九州大会出場

- 【体育部】  
サッカー部、男・女バスケットボール部  
剣道部 熊谷孟士、渡辺拓也、溝田俊太、内藤慶、田中沙都季、宮本昇真  
弓道部 彌吉修明、西川響、川野雄貴、柴田苑実  
陸上競技部 尋木奏百、中村亮太、森綾香、江口花凜、山田桃愛、富安遼一、本村明日香、森田祐実、大坪桃子、清水彩楓、松丸優美、加藤千夏、川邊暉、桑野倅成、佐々木玉緒  
柔道部 壇香垂里、吉岡莉帆  
水泳部 吉山史織、牛島早紀、西田和樹、高山尚暉、高山晴暉  
卓球部 伊藤菜月、福田成美、高松まゆ、中村泉美、緒方綾乃  
【文化部】  
放送部 吹奏楽部

県大会出場

## 平成28年度 入試等合格者一覧

国公立大学	東洋大学	6	長崎総合科学大学	9
広島大学	日本大学	1	別府大学	2
島根大学	神奈川大学	1	立命館アジア太平洋大学	2
山口大学	城西国際大学	2	崇城大学	13
高知大学	国際武道大学	1	熊本保健科学大学	4
愛媛大学	天理医療大学	1	九州看護福祉大学	15
九州大学	日本映画大学	1	<b>短期大学</b>	
福岡教育大学	同志社大学	4	中村学園大学短期大学部	6
九州工業大学	立命館大学	15	九州大谷短期大学	2
佐賀大学	関西学院大学	1	他3校	
熊本大学	近畿大学	5	<b>専門学校</b>	
長崎大学	大阪芸術大学	1	久留米大医療検査専門学校	1
大分大学	神戸芸術工科大学	2	大川看護福祉専門学校	2
鹿児島大学	広島工業大学	1	他14校	
宮崎大学	広島国際大学	2	<b>公務員</b>	
琉球大学	川崎医療福祉大学	3	国家一般	2
山口県立大学	西南学院大学	58	税務職	2
下関市立大学	福岡大学	135	東京特別区	1
鳥取環境大学	中村学園大学	14	福岡県職	2
北九州市立大学	久留米大学	50	福岡市職	4
大分看護科学大学	筑紫女学園大学	5	みやま市職	2
<b>準大学</b>	九州産業大学	28	八女市職	2
防衛大学校	福岡女学院大学	2	広川町職	2
<b>私立大学</b>	福岡女学院看護大学	1	嘉麻市職	1
慶應義塾大学	国際医療福祉大学	12	福岡県警	3
早稲田大学	福岡工業大学	20	警視庁	1
中央大学	九州栄養福祉大学	2	福岡市消防	1
明治大学	久留米工業大学	3	八女地区消防	2
駒澤大学	帝京大学	6	自衛隊一般曹候補生	6
専修大学	純真学園大学	5	自衛官候補生	5
創価大学	聖マリア学院大学	1	<b>就職</b>	
多摩美術大学	第一薬科大学	2	日本郵便株式会社	1
東海大学	九州情報大学	1	福岡大城農協	1
東京造形大学	西九州大学	16	西邦化学産業	1
東京理科大学	保健医療経営大学	3		

**編集後記**

今回、八女中四回生である田崎廣助画伯の特集記事を掲載させて頂きました。彼の才能を認めた美術教師、そして阿蘇山との出会い。「阿蘇の田崎」として世界に名高い田崎先生の画家への道が、本学(八女中学)を起点としていたことを考えますと、大変感慨深く、母校に対する想いも深まります。芸術が生きているのは芸術家が作品を生み出している時、そして、再び「生きる」のはその絵を見た者の心が動く時であると、教えて下さった先生がいらつしやいます。まだご覧になっていない同窓生の方々には、ぜひ作品の数々を見て頂き、何かを感じていただけたらと思います。

田崎先生をはじめ、先輩方の生き方に触れることで、私共後輩は触発され、自己の生き方や進むべき道について考えを深めることができそうです。苟も母校に勤務する身として、自分探しの中途にある在校生には、先輩方に学ぶ機会を多く持つてもらいたいと改めて考えました。最後にありますが、本号の発行に際しまして、多くの方々にご協力いただきましたことを心より感謝いたします。

**同窓生紹介**  
田島照久(たじまてるひさ)(高20回)1949年筑後市生まれ。八女高等学校卒、多摩美術大学グラフィック・デザイン科卒。浜田省吾など多くのミュージシャンの撮影とアートディレクターを務める。4月2日から5月8日まで、九州芸文館にて、「田島照久の全仕事展」が開催された。



## 同窓会の情報は、まずホームページから!!

同期会(学年会)や支部総会の期日等を知りたい場合は、まずホームページをご覧ください。会員の皆様の親睦のため、大いに活用していただけるよう日々更新をモットーに情報の提供に努めてまいります。



<http://yamechuyameko.sakura.ne.jp/>